

【学校統合に関する住民説明会 要約】

1/30（金）住用公民館

住民参加者 男 20 人, 女 14 人 計 34 人

1 説明会の位置づけ

本説明会は、住用町内における児童生徒数の減少を背景に、学校の統合・再編について現状説明を行い、住民から意見や質問を聴取することを目的として開催された。

委員会での検討状況や将来推計では、今後さらに児童生徒数の減少が見込まれており、学校統合は避けられない課題であるとの認識が示された。

2 質疑応答・主な意見

【防災・安全面に関する質問・意見】

過去の豪雨災害では、土砂崩れや河川氾濫が発生し、学校から帰宅できない状況もあった。

学校は地域の避難所でもあり、統合によって一校のみになった場合、その学校が被災すると「住用から学校がなくなる」ことになる。

「防災に強いまちづくり」を掲げている地域創生戦略と、学校統合の考え方が整合しているのか疑問。

学校関係者だけでなく、防災の視点を含めた慎重な検討を求める。

【複式学級・教員配置に関する質問】

統合すれば複式学級が解消され、専任教員が配置されると期待していたが、本当に解消されないのか。どの程度の児童数になれば複式が解消されるのか。

【学校形態に関する質問】

統合以外にどのような学校形態が考えられるのか。

【少人数教育の価値に関する意見】

少人数教育では、児童一人ひとりが大切に育てられていると感じる。大人数教育が必ずしも良いわけではなく、社会に出ると1対1の関係性が重要になる。

学校教育だけでなく、社会に出てからの学びも重要であり、統合ありきの議論には賛成できない。

教育現場の都合だけでなく、社会で生きる力をどう育てるかという視点を

持ってほしい。

3 まとめ

住用町内学校再編については、児童生徒数減少という現実的課題がある一方、防災、地域存続、少人数教育の価値など、多角的な視点からの意見が出された。

多くの住民から「拙速に結論を出さず、丁寧な検討を求める」声が寄せられた。

事務局からは、今回の意見を今後の検討委員会での協議に反映させていく旨が示された。